



## 「2026 JTSU春闘」を 全組合員でつくり出そう！

JTSUは、昨年12月6日に第7回執行委員会、各単組代表者会議を開催し、取り組みのスローガンと5つの柱を立て、「2026 JTSU春闘」に取り組んでいくことを確認しました。今年に入り、他企業の労働組合では春闘方針を決定するなど本格化してきています。

2026年の春闘はどのような状況なのか、そして、私たちはどうたたかいをつくり出していくかなど、シリーズ化していきます。

### スローガン

JTSU春闘の創造と定着！

新しい時代の働き方と向き合い、  
公正な賃金を目指して労働法制を守り抜き、  
全組合員参加の運動を職場からつくり出そう！

### 5つの取り組みの柱

- (1) 賃金のベースアップの取り組み
- (2) 総合労働条件改善の取り組み
- (3) 労働時間短縮と休日増に向けた取り組み
- (4) グループ経営ビジョン「勇翔2034」における  
賃金と労働のあり方の検討
- (5) 「労使自治を軸とした労働法制に関する提言」を  
ふまえた職場と組織を守り抜く取り組み

### 【政治の動き】

#### ◆昨年11月に開催された政労使会議

- ・高市首相が、賃金上昇率が5%を超えた2024年や2025年と遜色ない水準の賃上げの実現や物価上昇に負けないベースアップ実現に向けた協力を要請。
- ・「賃上げを事業者に丸投げせず、継続的に賃上げできる環境を整備する」と、価格転嫁の徹底や、中小企業の成長投資支援など賃上げの環境整備に取り組むと表明。

### 【経営側の動き（経団連）】

#### ●経営労働政策特別委員会報告

（経労委報告）

- ・基本給を底上げする「ベースアップ」を「賃金交渉のスタンダード（標準）」  
⇒ベア実施検討が重要な柱とも示している
- ・賃上げに向けたモメンタム（勢い）の「さらなる定着」へ先導役を果たす

※筒井会長⇒「日本経済を強くするには継続的な賃上げが必要」「連合が求めている賃上げに対して、基本的にベクトルは合っている」

### 【労働者側の動き（連合）】

#### ◇昨年11月開催した中央委員会

- ・全体で5%以上、中小は6%以上と組織方針を決定。
  - ・今後の日本の行先を決める正念場と位置づけ、労使交渉に取り組むように呼びかけ。
- ※芳野会長⇒「賃上げ定着へ正念場」「2024年・2025年同様の高水準をめざす」

**官製春闘を踏襲しつつも、  
労使の賃上げムードはある！**

JTSUは持続可能な開発目標（SDGs）を  
応援しています。